

であった。

(4) 畳数の寮室においては、電気掃除機を使用する方法が箒掃除による方法よりはるかにすぐれた方法であることがわかった。

D-7 掃除による病室内空気の、塵埃ならびに一般細菌による汚染度について

高知女子大 深瀬 亀美

1. 終日病床にある患者にとっては、清潔な環境が与えられることは、薬や栄養と共に大切なことであるが、果たして病室内空気の汚染度はどの程度のものであるかを確認するとともに、そのよき清掃法、清潔保持方法を考察するために行なった。

2. 県立病院の内科・外科病室の中から軽症患者の室8室と大学寮室2室を選び、塵埃の測定は労研式濾紙塵埃計を用い、一般細菌測定にはオーカブロム改良法を使用した。

3. (1) 塵埃による空気の汚染状態は病室を平均して72.0~88.2(単位は1cc中の塵埃数)であった。平均値からいえば、清浄という部類にはいるものの掃除前の朝の空気でもすでに軽度発塵に属するものが、延32室中3室あった。掃除中の高度発塵が1室、掃除後20分において危険度発塵1室があった。

(2) 電気掃除機による掃除と、油を塗った板床に茶がらをまいて静かに箒ではく方法の塵埃による空気汚染度においては有意差はなかった(今まで掃除機は使用していない・物置がなくて患者の持物はベッドの下においてある)。

(3) 一般細菌による空気の汚染度は、病室の平均312,379(単位は1m³中のコロニー数)、寮室で94,544